

チームやんじー災害支援プロジェクト 被災地での活動内容

第4陣

2011/6/21～7/12

【第4陣主メンバー】 敬称略

山口幸雄 | 山口由里 | 笠原 英男 | 仲野 薫 | 近藤 武 | 佐藤 明美 | 古川 英範 | 伊藤英樹 | 中野将大

【炊き出し総数】 860食
(累計) 43452食

【被災地の状況】

仮設住宅での入居がすすむ。

暑さに伴い、ハエ問題が出てくる。

また、食中毒や熱中症の問題も出てくる。

6月24日、歌津升沢のファミリーマートがオープンする。

野菜なども、置いてあった。

6月30日に自衛隊は撤退、自衛隊が提供していた仮設風呂、給水車も30日でいなくなる。

以降、給水求むの看板があちこちに建つ。

飲み水はまだ復旧していない。

遺体捜索も、警察や消防が中心となっている。

瓦礫の撤去は進まず、まだまだ復興までの道のりは遠い。

後半、地元建設会社の雇用で住民の方が瓦礫撤去している姿も見られた。

漁協においても、漁港の清掃を漁師の方を雇用という形で清掃をすすめる。

岩手、宮城の行政で9000トンの支援物資が滞っているとのこと。連携団体が、配布委託を交渉しにいったものの委託させてもらえなかった。

行政からの義捐金も被災者に数十パーセントしか配布されていない。

【活動の様子】

地球サイズの支援の環

翻訳チームのメンバーも現地ボランティアに参加。

海外から日本人ボランティアが2名参加しました。

海外からのチームやんじー応援チャリティーイベントも幾つかありました。

自炊支援も含めて、買いにいけない世帯や家、高台に住む地区などに食材や生活用品を配布しました。

食材は、芋やりんご、豆腐など。また、調味料や米も配布しました。

豆腐は日系人が多いアルゼンチン的大豆を日本の業者が加工したものでした。

豆腐や味噌は大変喜ばれました。

また、ポケットティッシュや綿棒など、日常使用する衛生用品も喜ばれました。

1件1件回することで、炊き出しに来ていた人の顔や暮らしも見えた。

どこに老夫婦が住んでいるかなど把握できた。

少しでも地元が潤うように炊き出しの材料はできる限り、歌津のファミリーマートや長年移動販売を地域でしている方から購入するようにしました。

足りないものは、仙台に買い出しにいきました。
 山形の方から提供いただいたうどんは、主に冷やしうどんにしました。
 暑い日が続くので、そうめんや冷やしうどんなどのメニューが多かったです。
 また、炊き出しの場所も小規模の奥地の避難所などを中心に実施しました。
 当初から続けている吉野沢団地も、仮設住宅建設に伴い、さらに50世帯増え、食数も増えました。
 水も5000本近くのペットボトルの提供があり、配布しました。
 また、南三陸町歌津地区以外にも足を延ばし、海岸線の生活ニーズ調査をしました。
 発電機ではありますが、パソコンとプリンターがやっと接続できました。
 チームやんじーTシャツが完成。南三陸町のいつもお手伝いして下さってる方々に配布しました。
 また、北海道においては、募金ばかりでなく、買うことで、活動支援金につながり気持ちもつながるようにしました。
 チーム意識が芽生え、地元の方が水や生活用品を取りに来て配る姿もみられました。

【購入した主なもの】



炊き出しの材料。この頃は仙台で買い出し



プリンター、やっとネットつながる



水タンクなど積む中古の軽トラック



レスキューキッチン2台積める中古のバンを

【活動の写真】



豆腐は2000丁配布しました



子どもたちにおもちゃを



夏はうどんも多かった



物資を各家庭に配布する